



## トップメッセージ

初めまして。3月25日に星光PMCの社長に就任いたしました菅（かん）と申します。私は、12年前の2010年10月に金融業界から転じて当社に入社して以降、当社グループの事業領域拡大に尽力してきました。

就任初年度の今年は、新しい中期経営計画OPEN 2024のスタートの年です。昨年来の原料価格の値上がりや新型コロナウイルス感染症の帰趨など、事業環境の先行きは不透明ですが、今期の業績目標達成のための施策と併せて、中長期的な視点での成長へ向けた戦略にも取り組んでまいります。

市場環境の変化に加え、最近では企業の社会的責任の果たし方に関する事業運営のルールも変わりつつあります。だからこそ、その変化に成長の機会を生み出せるように社員一丸となって頑張りますので、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

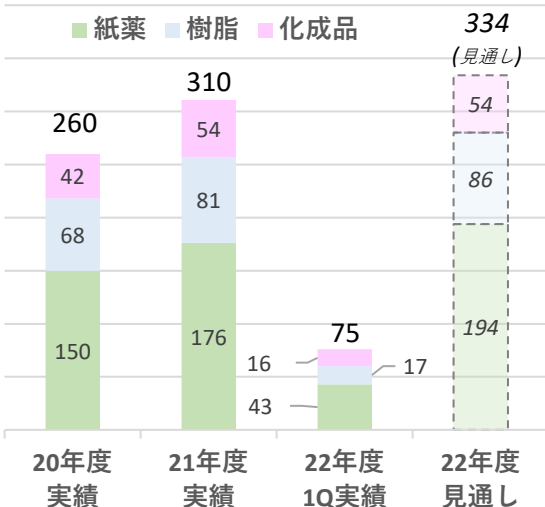
このたび、ステークホルダーの皆様へ、当社のことをより身近に感じていただくため、「SEIKO PMC Plus<sup>+</sup>」を発信することといたしました。業績概況の他に、サステナビリティへの取り組みなど、最近のトピックスについても紹介していきますので、ご覧いただければ幸いです。



代表取締役社長執行役員 菅 正道

## 売上高推移および業績見通し

セグメント別売上高(億円)



		21年度実績	22年度1Q実績	22年度見通し
売上高(億円)		310 (前年同期比+0.2%)	75	334
営業利益(億円)		28.6	5.8 (同▲39.7%)	20.4
純利益(億円)		20.8	6.2 (同▲11.2%)	14.7
EBITDA(億円) <sup>(*)</sup>		41.5	8.8 (同▲28.3%)	37.0
1株当たり 配当(円)	2Q末	8	-	8
	期末	8	-	8
配当性向		23.3%	-	33.0%

<sup>(\*)</sup> EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

### 【2022年度第1四半期の業績コメント】

新型コロナの影響が残る中国・東南アジアにおいて販売が低調でしたが、国内製紙用薬品、化成品が好調に推移し、売上高は75億円と略前年並みでした。営業利益は原燃料価格の高騰の影響を受け5.8億円となりました。好調であった昨年1Qと比べると約40%の減益ですが、コロナ禍前の2019年1Q(6.2億円)や、一昨年1Q(5.9億円)並みの水準でした。

**製紙用薬品事業:** 国内販売が堅調に推移し、前年同期比5.6%の増収。

**樹脂事業:** 昨年好調の粘着剤が軟調で17.3%の減収も水性インキ用樹脂は堅調。

**化成品事業:** 海外向け中心に昨年来の好調を継続。UV硬化樹脂分野(インキ、粘接着)が牽引し10.6%の増収。

年央には製紙用薬品の二つ目の海外拠点となるベトナム工場が稼働を開始する予定です。早期に立ち上げて、コロナ禍から景気が回復しつつあるベトナム/東南アジアを始め、国内外での拡販活動に一層注力するとともに、コスト削減や原燃料値上がりの製品価格への転嫁に取り組むことで、今期の業績目標達成を目指します。

## ベトナム工場

ベトナムをはじめとする東南アジアの旺盛な紙製品の需要、ならびに生産に貢献するべく、この程、ベトナム南部バリアブントウ省に製紙用薬品工場の建設を完了し、本年年央の生産開始に向けた最終準備に入っています。

新工場は、新中期経営計画OPEN 2024の基本方針の主要なテーマである「海外（特に東南アジア）への積極展開」の具体的な取組みの一つとして、当社固有の製紙用薬品製造技術、



ならびに中国での事業運営で培った経験をベースとして、ベトナムの若い皆さんの力を糧に設立されました。

生産開始後は、日本・中国の当社グループ既存各工場と有機的に連動し、アジアの広範な市場への供給体制の一翼を担ってまいります。



### CNF配合樹脂「STARCEL®」の身近な物への応用

CNF（セルロースナノファイバー）は天然資源である木材から得られる環境に配慮した軽量・高強度の機能性材料ですが、高い製造コストがCNF普及の妨げとなっていました。しかし、ここ数年の研究開発により着実にコスト低減が進んでいます。CNF配合樹脂「STARCEL®」の大幅なコストダウンを実現し、自動車・家電・建材・日用品などの身近な製品に幅広く採用されることで環境に優しい社会の実現に貢献してまいります。



### CNF製品と脱プラの近況



#### 脱プラスチック・紙化への取組み

紙包装に耐水性、耐油性、バリア性、シール性を持たせる機能性コート剤を開発、「SEIKOAT®シリーズ」として展開しています。バーガーラップ紙のような食品包装材用として生産ライン試験が進んでおり、食品包装材用、カップ用途などで、22年度中の実績化を目指しています。最近では高バイオマス率で生分解性を有する製品もラインナップし、更なる環境負荷低減に取り組んでいます。

## サステナビリティに関する取組み



本年4月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明し、同提言に賛同する企業・金融機関等により構成される「TCFDコンソーシアム」に加入しました。

今後は、気候変動問題をはじめとする様々な環境・社会課題の解決に向けた取組みをよりいっそう充実させるとともに、情報発信の充実を図ってまいります。

### 各事業所での取組み事例

◇当社は地方創生SDGsにも積極的に取組むため、各地域の制度に賛同しています。

- ・ちばSDGsパートナー登録制度（千葉工場、千葉研究所、市原研究所）
- ・倉敷市・高梁川流域SDGsパートナー制度（水島工場）

◇GHG削減施策の一環として、本年1月、水島工場にソーラーパネルを設置、太陽光発電を活用しています。

### 編集後記

当社の製品を直接お手にとっていただく機会は少ないですが、この「SEIKO PMC Plus」を通じて、少しでも身近に感じていただけたら嬉しく思います。今後も内容の充実に向けてまいりますので、ご意見などございましたら [ir@seikopmc.co.jp](mailto:ir@seikopmc.co.jp) までお願いいたします。